



合併20周年記念誌

本荘由利森林組合

## ごあいさつ



# 合併20周年を迎えて

本荘由利森林組合  
代表理事組合長 小松佳和

本荘由利森林組合は、平成7年3月31日の合併以来、20周年の節目を迎えました。

これも偏に組合員、行政、関係機関各位のご指導、ご支援の賜物であり、衷心より感謝とお礼を申し上げます。

昭和30年代、管内の森林組合は、市町村合併と時を合わせ行政単位ごとに存在し、仁賀保森林組合を加えた管内8森林組合となりました。その後も広域合併の話は途絶えることなく、森林組合長会では度々話題に上っておりました。昭和40年代から続いた1万ヘクタール造林が終了し、育林から利用の時代へと移り変わってきた平成4年9月、合併推進協議会が立ち上がりました。3年に亘り通算6回の協議を重ね、平成6年12月21日の合併予備契約調印式、各組合の臨時総代会の決議を経て合併の運びとなったものです。

さまざまな意見をまとめ、目標とする森林組合像を語り、全国屈指の森林組合誕生に向け調整に努めた当時の各組合長の皆様をはじめ、合併に携わった方々のご苦勞に対しまして、深甚なる敬意を表するものであります。

合併当初、スギ人工林の活用を図るため、小径木加工場に代わる大型製材工場と、管内から生産される木材の販売拠点施設として、木材流通センターの建設が計画されました。

由利管内に点在する30数社の製材工場との調整、協議を重ね、各社との連携と共存共栄の道を模索しながら平成10年10月、竣工の運びとなりました。隣接する木材流通センターも翌年開設し、本荘由利地域の木材流通加工団地が誕生しました。

一方、高性能林業機械等の導入や林業技能者の新規採用を重ねるなど、「人・機械・道」の基本方針を保持継承して、組合員所有の山林に付加価値を付けるべく最大の努力をしてまいりました。

現在は、森林経営計画を基に団地形成や集約化事業を推進するとともに、機械化による低コストで安全な林業の確立に取り組み、中核組合として林業事業体の協力をいただきながら、管内の森林整備に努めているところです。

近年、森林の持つ機能は、木材や森林バイオマス等の生産に加え、地球温暖化防止や生物多様性など多面的な発揮が求められる時代となりました。

健全な森林は、私たちの生活と文化の基盤を築くものであり、本荘由利地域の持続的な発展に貢献するものと信じています。

森林・林業を取り巻く情勢は、現在も様々な変遷をたどっていますが、一つ一つ解決の道を探りながら、県内一の蓄積を誇る民有林を宝の山となるよう築き上げ、将来に亘り循環する森林の造成に取り組んでいかなければなりません。

このことが、本荘由利森林組合の使命と受け止め、地域林業の活性化のため役職員一丸となって邁進してまいります。

関係各位におかれましては、今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

# 目 次

## ■ ごあいさつ

- ◆ 本荘由利森林組合代表理事組合長 小 松 佳 和

## ■ メッセージ ..... 2

- ◆ 秋田県農林水産部長 奈 良 博

- ◆ 由利本荘市長 長谷部 誠

- ◆ にかほ市長 横 山 忠 長

- ◆ 秋田県森林組合連合会代表理事会長 佐 藤 重 芳

- ◆ 元副組合長理事 佐 藤 久 弥

## ■ 歴代の代表理事組合長 ..... 5

## ■ 現在の役員 ..... 5

## ■ 本荘由利森林組合の概要 ..... 6

- ◆ 沿革と管内の森林の状況 ..... 6

- ◆ 運営組織の状況 ..... 6

- ◆ 組織図 ..... 7

- ◆ 管轄区域と本支所所在地 ..... 7

- ◆ 経営基盤の状況 ..... 8

## ■ 組合の主な事業 ..... 9

## ■ 合併20年のあゆみ ..... 10

## ■ 森林組合だより100号までのあゆみ ..... 19

## ■ 歴代の役職名簿 ..... 20

# 20thから未来へ!

～ 新たなステージに向かって ～

私たちに大切なことは、「信頼」と「情熱」です。

私たちは、信頼と情熱を積み重ね、組合員のため  
の、将来に繋がる森林を創ります。

本荘由利森林組合は、新たなステージに向かって、  
組合員の皆様とともに、更なる躍進を目指してまい  
ります。

。。。歩んできた足音が聞こえる!



歩んでいく足音を感じる!。。。



## メッセージ



## 祝 辞

秋田県農林水産部長 奈良 博

本荘由利森林組合の合併20周年を心からお祝い申し上げます。

貴組合は、広域合併により経営基盤を大幅に強化され、森林の整備や木材の生産・流通、加工販売のほか、海岸林や里山林の保全など、川上から川下まで幅広く事業を展開し、地域産業の振興や雇用、環境の保全に大きく貢献されてきました。これも歴代の組合長様や役職員、組合員の皆様のご尽力の賜と、深く敬意を表する次第であります。

さて、本県では、全国一の資源量を誇るスギ人工林の成熟化が進み、本格的に伐採し活用する時代を迎えていることから、秋田スギなどの県産材の需要を拡大し、地場産業として秋田の成長の一翼を担う林業・木材産業を再生していくことが大きな課題となっております。

このためには、森林経営計画の作成や間伐等施業の集約化、路網の整備、高性能林業機械の導入、林業技術者の確保・育成を図りながら、原木の低コスト安定供給体制の整備を進めることが重要であり、地域の森林に精通されている県内有数の森林組合として、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴組合が20周年という節目を契機に、今後益々ご発展されますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



## 発刊を祝って

由利本荘市長 長谷部 誠

本荘由利森林組合の合併20周年を、心からお祝い申し上げます。

さて、最近の森林・林業を取り巻く状況は、円安基調などに伴う外材から国産材へのシフトなどにより、地域材への期待が高まるとともに、森林経営計画制度の定着や森林整備加速化・林業再生基金の拡充などにより、原木や製材品の供給体制の整備が進みつつあります。

こうした中、貴組合において導入する高性能製材機械は、県内一の森林資源を誇る本市にとりまして、秋田スギの安定供給体制を図り、地域材の利用拡大に寄与するものと期待するところであります。

近年、化石燃料に大きく頼らず、森林を活用したエネルギーで地域経済の循環を試みる里山資本主義がマスコミなどで大きく取り上げられています。

戦後、一斉に植林され、伐期を迎えた森林の大部分が、間伐などが施されず放置されている現状である中、これらを有効利用することが林業の未来を明るくするものと考えるところであります。

森林は国土保全、環境保全など公益的機能の面からも重要な資源であり、本市面積の74%を占める森林資源を守り、育てていくため、本荘由利森林組合のなご一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本荘由利森林組合の今後益々の発展を心からご祈念申し上げ、記念誌発刊にあたってのお祝いのことばといたします。



## 合併20周年記念誌の発刊に寄せて

にかほ市長 横山 忠長

本荘由利森林組合が、本年をもって合併20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

本荘由利森林組合におかれましては、日頃から地域林業の中核的担い手として森林の整備保全、地域林業の振興はもとより、二酸化炭素の吸収など森林の持つ健康増進機能の発揮を通じて、健康で安心、豊かな住民生活に寄与されておりますことに深く感謝申し上げます。

貴組合は、平成7年の合併以来、県内屈指の組合員数を有する規模・組織力をもって組織基盤を強化し、さらには従来にも増して事業運営の効率化・低コスト化や地域の特色やニーズを生かした事業展開など業務執行体制の充実強化に取り組んでこられました。特に近年の森林・林業を取り巻く経営環境の厳しい中、地域の加工・販売流通体制の強化を図るため、製材工場・木材流通センターを運営するなど、組合員が生産した木材に付加価値を付け、より組合員への利益還元を図られましたことは、大きな成果と考えております。

近年、森林・林業を取り巻く環境は、木材価格の長期低迷による採算性の悪化や林業の担い手不足など一層厳しさが増している一方で、治山、治水や大気浄化、二酸化炭素の吸収など森林の公益的機能の持続的発揮に対する期待が高まっており、中核的担い手として活躍されている貴組合の役割は今後ますます大きくなっていくものと考えております。

本市におきましても、豊富な森林資源を有効かつ最大限に活用するため、引き続き地域林業の担い手による積極的な取り組みに対して支援しながら、貴組合管内の森林・林業・木材産業の構築に向けて、組合員の皆様方と知恵を出し合い、力を合わせて一步一步着実に進んでまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、合併20周年という輝かしい筋目を迎えられ、貴組合並びに組合員の皆様方の一層のご発展ご活躍をご祈念いたしまして、発刊にあたっての挨拶といたします。



## 合併20周年を祝して

秋田県森林組合連合会代表理事会長 佐藤 重芳

本荘由利森林組合がこのたび合併20周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

貴組合が設立された平成の初頭は、国産材価格の低迷や林業労働力の減少・高齢化が進む中で、昭和40年代の1万ヘクタール造林運動で造成されたスギ林が本格的な保育期を迎えるなど、多岐に渡る課題に直面し、地域林業の担い手である森林組合の体質強化が叫ばれた時代でありました。

このような厳しい情勢を受け、貴組合は平成7年に由利管内8組合の合併により設立されました。設立後これまで、木材加工施設の規模拡大を図り、川上から川下までの一貫した生産体制の強化により収益を確保するとともに、造林コンクール等を開催し、森林の意義を広く地域に普及させながら、今日の多様な森づくり運動の展開や県内一の事業規模を誇る森林組合に導いてきたことは、歴代の組合長さんのもとより、関係各位のたゆまぬ努力の賜と深く敬意を表するものであります。

また、最近では日本経済再生の一環として、林業復活をとらえた「林業復活・森林再生を推進する国民会議」が経済界から提唱されるなど、林業に対する新たな視点による、新たな期待が寄せられております。

このような追い風を背景に、先人の努力により造成された豊富なスギ資源の利活用を図り、本荘由利地域の活性化につなげていくとともに、再造林をはじめとするスギ資源の循環利用を推進しながら、健全な森林環境を次世代に引き継がれるよう、貴組合の一層のご活躍が切望されます。

結びに、この20周年を契機に、本荘由利森林組合が今後ますます発展され、新たな輝かしい歴史を刻まれることを心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



## 二十周年を迎えて

元副組合長理事 佐藤 久 弥

本荘由利森林組合が合併20周年を迎えましたこと、誠に同慶の至りでございます  
新組合が誕生して早や20年、顧みれば平成4年から約3年間に渡る合併協議でしたが、難航する合意  
形成や激しい論争等今では当時が懐かしく思い出されます。

合併前の本荘由利管内8森林組合でも昭和47年頃から組合の広域合併論は結構話題に上がっておりま  
したが、残念ながら具体性に乏しく合併の実現には程遠い状況下に有りました。

しかし、平成4年の子吉川流域林業活性化事業を基に、森林組合の広域合併の必要性が再認識され、  
郡市の1市10町と8森林組合による合併に向けた推進協議会が設立されました。

8森林組合の組合長で構成する常任委員会では「合併の合意事項」を確認し、更に拡大した設立準備  
委員会では具体的な「合併及び事業経営計画書」を作成し、平成6年12月の合併予備契約の調印式を経  
て、平成7年3月には県内屈指の新たな本荘由利森林組合が誕生致しました。その組合がこの度、合  
併20周年を目出度く迎えましたことは、合併推進に携わって来た一人として、感慨無量の喜びを感じて  
おります。

どうか、この合併20周年を契機に地域林業の中核的担い手として、今後ますますの発展と新たな輝か  
しい歴史を刻まれますことをお祈り申し上げます。



## 歴代の代表理事組合長



《初代》  
故 田 口 荘一郎

● 在任期間  
平成7年3月31日～  
平成11年3月30日



《第二代》  
故 佐 藤 恵

● 在任期間  
平成11年3月31日～  
平成14年3月30日



《第三代》  
佐 藤 健 一

● 在任期間  
平成14年3月31日～  
平成17年3月30日



《第四代》  
小 松 佳 和

● 在任期間  
平成17年3月31日～

## 現在の役員



熊谷典夫 (理事)	齋藤惣一郎 (理事)	岡見晃一 (理事)	三浦 功 (理事)	荘司範彦 (理事)	加藤貞藏 (監事)	加藤 進 (監事)	佐藤健一 (理事)
猪股長一 (理事)	初瀬東一 (理事)	工藤喜作 (理事)	鈴木敏規 (理事)	伊藤修二 (理事)	佐々木法夫 (理事)	藤原正一 (理事)	畑山作喜 (理事)
佐藤喜久一郎 (理事)	村上佐左衛門 (代表監事)	鈴木 充 (副組合長)	小松佳和 (組合長)	小番 勲 (副組合長)	佐藤勝栄 (理事)	小松幸夫 (理事)	



## 本荘由利森林組合の概要

### ■沿革と管内の森林の状況

本荘由利地域は、秋田県の日本海沿岸南部に位置し、山形県に隣接し、県内では比較的温暖で、秀麗な鳥海山の麓に広がり、これらを水源とする子吉川をはじめ、多くの清流が日本海に達するなど、『山・川・海』のある風光明媚なところです。

本森林組合は、平成7年3月31日に本荘市・由利郡管内1市10町の8組合が広域合併して誕生いたしました。

組合規模は、組合員数約5千7百人、出資金401百万円、組合員所有森林面積59千ha（管内民有林の72%）と県内屈指の基盤を誇っています。

当管内の民有林面積は、約8万1千haで、面積、蓄積ともに県内一の資源量を有し、年々成熟度を増しており、本格的に伐採活用できる時代を迎えつつあります。

当組合では、林産物の有効活用と森林の健全な保続のための各種事業を実施するとともに、林産物の高付加価値化のため、製材工場や木材流通センター等も含め、総合的な運営をしており、地域林業の中核的担い手として、組合員の皆様と一体となった活動を展開しております。

由利管内の、森林資源の主な特徴は次のとおりです。

- ① 森林面積に占める民有林率が県平均を大きく上回っており、民有林：国有林の比率は、県平均が54：46であるのに対し、由利管内は78：22で、民有林の広い地域となっています。
- ② 管内の森林面積は、県内民有林面積の18.3%を占めています。うちスギ人工林は、面積で、全県の18.8%、蓄積で22.2%、同じく、広葉樹林は、それぞれ17.5%、17.3%となっており、当管内は、スギ人工林とともに、豊かな広葉樹資源にも恵まれています。
- ③ 管内のスギ人工林の林齢は、平均で9齢級（45年生）に達しているほか、ha当りの成長量も県内で最も高く、管内全体では424千m<sup>3</sup>/年となっています。

### ■運営組織の状況

#### 〈組合員数〉

区 分	平成6年度	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成25年度
正組合員	6,171	6,074	5,909	5,773	5,663
准組合員	101	41	35	75	86
合 計	6,272	6,115	5,943	5,848	5,749

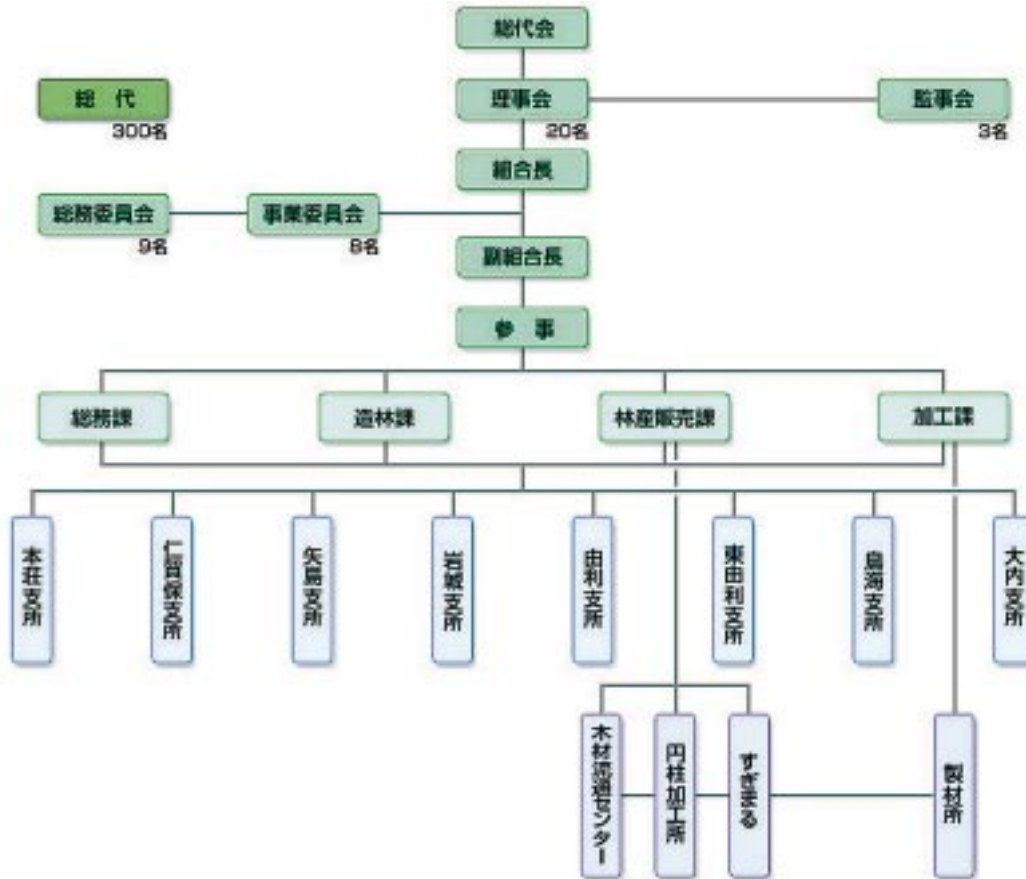
#### 〈役員数〉

区 分	平成6年度	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成25年度
理 事	72	26	20	20	20
監 事	21	4	3	3	3
合 計	93	30	23	23	23

#### 〈職員数〉

区 分	平成6年度	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成25年度
職 員 数	49	54	46	46	40
技能職員数	81	67	55	47	45
合 計	130	118	101	93	85

■組織図



■管轄区域と本支所所在地

由利本荘市・にかほ市が管轄区域となっています。



## ■ 経営基盤の状況

### 〈主要事業実績〉

区 分	平成7年度	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成25年度
素材販売量 (m <sup>3</sup> )	39,972	45,646	49,298	49,537	87,109
森林造成事業量 (ha)	3,801	3,505	2,162	3,611	2,072
製品販売量 (m <sup>3</sup> )	4,561	5,371	5,891	4,108	5,354
共販販売量 (m <sup>3</sup> )	12,857	13,465	3,087	5,939	10,772

### 〈事業収益〉

区 分	平成7年度	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成25年度
事業総収益 (千円)	2,002,309	2,129,527	1,920,847	1,855,930	2,602,066
事業総利益 (千円)	335,294	405,545	383,349	375,104	506,522

### 〈主な施設等〉

施 設 名	内 訳
1 製材工場	国産材加工施設 207kw (西目町 産地形成型林業構造改善事業) 平成9～10年度実施 平成23年度 木材乾燥貯蔵施設建設 平成24年度 木材乾燥機他増設
2 共販施設	林産物集出荷販売施設 18,183m <sup>2</sup> (西目町 景気対策臨時特別林構事業) 平成10～11年度実施
3 木工施設	木工施設(すぎまる) (本荘市 林業山村活性化林業構造改善事業) 平成5年度実施
4 円柱加工施設	円柱加工機他一式 平成14年度実施
5 高性能林業機械	ハーベスタ1台、プロセッサ3台、フォワーダ5台
6 その他の林業機械	グラップル付パワーショベル11台、グラップル付トラック2台、 ショベルローダー7台、フォークリフト6台
7 トラック・連絡車・ 人員輸送車	トラック11台、人員輸送車7台、連絡車29台、その他6台

### 〈資格取得者〉

・森林組合監査士 2名	・林業技士 7名	・1級造園施工管理技士 1名
・測量士補 3名	・劇物毒物取扱者 2名	・2級土木施工管理技士 8名
・危険物取扱者 8名	・准フォレスタラー研修修了者 1名	・森林施業プランナー基本技能認定者 1名

## 組合の主な事業



### ◆指導部門

当組合では、組合員のための指導部門を重視しており、座談会、組合員研修、技術講習会、造林コンクールなど多種に亘る事業を実施しております。特に、これまで9回を数える「森林組合まつり」は毎年好評で朝早くから長蛇の列をなして開会を迎えるほか、造林コンクールは、合併後も毎年継続しており、合併以前から通算すると平成25年度で60回目となります。

### ◆林産販売部門



合併当初から、素材生産事業に係る高性能林業機械等の導入による基盤整備と人材の育成に力を入れており、現在4班体制で稼働中です。原木等の販売量も着実に増大し、平成25年度は合併時に比べて倍増となりました。

また、事業の集約化と生産性の効率化により、低コスト化に取り組み、組合員の皆様へ、より多くの還元が図れるよう努めています。

さらに、平成14年度からは間伐などで生産される小径木を有効利用するため、砂防堰堤など治山工事に使用される型枠パネルや、杭丸太の生産に努めています。

今後は、木質バイオマスとしての利活用も推進していく必要があります。



### ◆加工部門

平成10年秋創業以来、年間原木消費量10,500m<sup>3</sup>、製品生産量5,000m<sup>3</sup>を目標に稼働してきましたが、乾燥製品や集成材など時代のニーズに応えるとともに、地域材の更なる需要拡大を図るため、平成26年度にはツインバンドソー等を導入し、現在の2倍の生産量を目指します。

### ◆森林整備部門



管内のスギ人工林の成熟化に伴い、近年の森林整備の中心は収穫間伐が主体となっています。

事業の実施にあたっては、組合員との綿密な打ち合わせのもとに、長期施業の委託や集約化を図り、計画的な山づくりを心がけています。

今後とも、森林GIS等による情報を駆使し、国、県、市等の様々な支援制度を活用しながら、組合員のための将来につながる森林づくりを目指してまいります。

## 合併20年のあゆみ



### 平成6年度

平成7年3月

#### ■ 「本荘由利森林組合」が誕生

6回に亘る合併協議会を経て、本荘市森林組合、仁賀保森林組合、矢島町森林組合、岩城町森林組合、由利町森林組合、鳥海町森林組合、東由利町森林組合、大内町森林組合の8組合が広域合併し、本荘由利森林組合が誕生する。

初代組合長に、本荘地区選出の田口荘一郎氏が就任する。



### 平成7年度

平成8年1月

#### ■ 高性能林業機械を導入

集団的な間伐を実施し、伐出事業の高能率化、省力化を図り、活力ある森林の整備を目的に、流域総合間伐事業を活用して3台の機械整備を図る。

- ・ グラップル付き油圧ショベル 1台
- ・ ゴムキャタピラー式フォワーダ 1台
- ・ セルフローダー付大型トラック 1台



2月

#### ■ 合併後初の造林コンクールを開催

第1回造林コンクール表彰授与式並びに林業講演会を開催する。

3月

#### ■ 役員選挙が実施される

合併特例で任期が1年間となっていた役員選挙が実施され、新たに30名が選出される。

- ・ 定数改正 理事…26名 監事…4名
- ・ 組合長には、田口荘一郎氏が再任。





## 平成8年度

平成8年4月

### ■ 技能班員採用

グリーンエース 5名、加工 1名

10月

### ■ 高性能林業機械を導入

- ・ハーベスタ 1台
- ・剥皮機 1台

10月

### ■ 林業技能班員の休憩施設を建設

本所構内に林業技能班員の休憩施設 1棟を建設。



10月

### ■ 木工教室開催

「すぎまる」で小学生を対象に親子木工教室を開催。



平成9年1月

### ■ 本荘由利森林組合林業研究会が発足

1月19日、設立総会を開催。  
会長に鈴木利市氏が就任 会員62名

1月

### ■ 平成8年度林業労働力育成確保優良事業で林野庁長官賞を受賞

都道府県林業労働力支援センター全国推進協議会主催の標記事業で、林業労働力の育成確保に積極的に取り組んで、他の模範となる優良な事業体として当組合が受賞の栄に浴する。



## 平成9年度

平成9年4月

### ■ 「林業相談日」を開設

専任指導員三浦光喜氏が毎月一回各地区（支所及び役場）を巡回する。



11月

### ■ 国産材加工施設整備事業で西目製材工場の建設に着手

総事業費 641,861千円





## 平成10年度

平成10年10月

### ■ 西目製材工場が竣工

国産材加工施設整備事業で平成9年度から進めてきた「西目製材工場」が竣工し、神事と祝賀会を挙げる。



平成11年3月

### ■ 役員選挙を実施

役員選挙実施。新たに役員30名が選出される。仁賀保地区選出の佐藤恵氏が第2代組合長に就任する。



## 平成11年度

平成11年4月

### ■ 東由利支所移転

現在地へ。

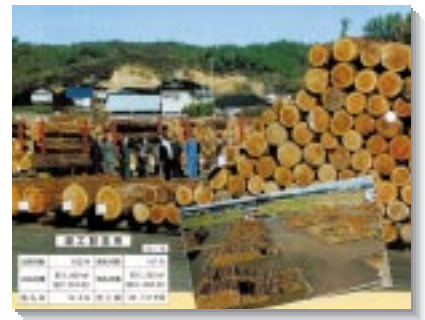
5月

### ■ 東由利町(八塩いこいの森)で第51回全県植樹祭開催

9月

### ■ 木材流通センターが竣工

国産材集出荷販売施設整備事業で実施した「本荘由利森林組合木材流通センター」が竣工し、神事と祝賀会を挙げる。



9月

### ■ 木材流通センター開設

10月

### ■ 竣工記念市開催



## 平成12年度

平成12年4月

### ■ 緊急間伐実施事業がスタート

集約化事業の前身ともいえる、団地形成して搬出間伐を実施した場合に高額補助が受けられる事業で、平成12年度は410haの間伐を実施。

7月

### ■ 大内支所移転

岩谷駅前J A支店内へ。

11月

### ■ 鳥海支所移転

基幹集落センター内へ。



## 平成13年度

平成13年 9月

### ■ 長期育成循環施業の創設

流域森林総合整備事業が拡充され、高樹齢人工林の抜き切りに支援。

9月

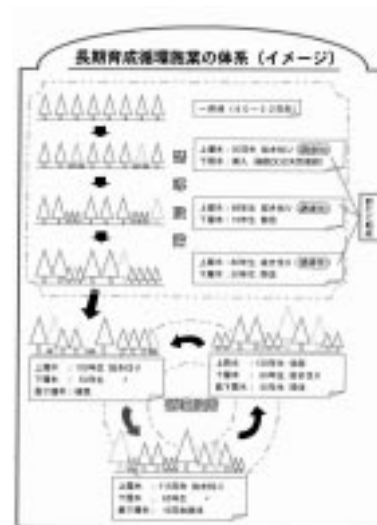
### ■ ホームページ開設

森林組合・林業情報のPRに努める。

平成14年 3月

### ■ 役員選挙を実施

新たに役員30名が選出される。本荘地区選出の佐藤健一氏が第3代組合長に就任する。



## 平成14年度

平成14年 4月

### ■ 森林整備地域活動支援交付金制度がスタート

森林現況調査、境界の明確化、作業路の補修事業などへ支援。

8月

### ■ 円柱加工製造施設を導入

増大する間伐材の小径木を利活用して、土木用木製構造物を製造し、地域材に付加価値を付けて販売する。年間生産計画量40,000本。



## 平成15年度

平成15年 5月

### ■ 仁賀保支所移転

象潟町旧青年の家へ。





## 平成16年度

平成16年 6月

### ■ 第1回東証上場の森植樹祭を開催

東京証券取引所初代社長土田正顕氏が旧矢島町出身の縁で、CSR事業の一環としてこの地に植樹をはじめ、当組合で管理を行う。（平成25年で10回を数える）



8月

### ■ 大内支所移転

旧芋川災害復旧事務所へ。

平成17年 3月

### ■ 役員選挙を実施

役員選挙実施。新たに役員23名が選出される。

・定数改正 理事…20名 監事…3名

東由利地区選出の小松佳和氏が第4代組合長に就任する。



## 平成17年度

平成17年 7月

### ■ 長期施業委託事業実施規程を設定

森林所有者の高齢化、兼業化、不在地主化や木材価格の低迷などによる関心の低下などにより、森林の適正な管理が行われないことを危惧し、GPS・GISを活用した長期施業委託を組合員から受託し、保育管理のほか現況報告や境界の管理を提供する。



10月

### ■ 森林GIS(地域森林管理システム)及びGPS(全地球測位システム)導入

パソコンで地図情報と所有者情報をリンクすることで、図面、地図上で目的地の情報（樹種、林齢等）が把握でき、かつ、静止衛星からのデータを活用することで測量データを地図上に明示でき、森林経営管理が容易となる。





## 平成18年度

平成18年 4月

### ■ 里山エリア再生交付金事業がスタート

森林の有する多面的機能を持続的に発揮し、森林整備を支える林業従事者が居住する里山エリアの再生を推進することを目的として創設される。現在まで適正な保育が行われていない林分で、切り捨て間伐を優先して行う。



9月

### ■ ナラ枯れ被害発見

9月25日、にかほ市象潟でナラ枯れが本県で初めて確認。

10月

### ■ 第1回森林組合まつりを開催

晴天に恵まれ約千人の市民で大賑わいをみせる。



12月

### ■ 高性能林業機械を導入

森林づくり交付金事業で高性能林業機械導入

- ・プロセッサ 1台
- ・フォワーダ 1台
- ・グラップルローダ 1台



## 平成19年度

平成20年 3月

### ■ 役員選挙を実施

役員選挙実施。新たに役員23名が選出される。小松組合長再選。2期目へ。



## 平成20年度

平成20年 6月

### ■ 第59回全国植樹祭が北秋田市で開催

6月15日、天皇、皇后両陛下をお迎えして、北秋田市の「県立北欧の杜公園」で第59回全国植樹祭が開催される。



平成21年 2月

### ■ 臨時総代会開催

高性能林業機械導入のため初めて開催。グラップル付きバックホー2台導入を決議。



## 平成21年度

平成21年 4月

### ■ 相互安全衛生事業(たんぽぽプラン)実施

協力事業体と連携して労災ゼロを目指して安全作業を推進。

11月

### ■ 第48回全国農林水産祭 農林水産大臣賞受賞

本荘地区 板垣憲一氏

当組合主催の造林コンクール第1位から、秋田県のコンクールを経て最高賞を受賞。



## 平成22年度

平成22年 4月

### ■ 農林水産省が「森林・林業再生プラン」を発表

森林・林業に関わる人材育成、林業・木材産業の地域資源創造型林業への再生及び木質バイオマスエネルギー利用拡大による森林・林業の低炭素社会への貢献を謳っており、2020年まで木材自給率50%を目標にしている。

8月

### ■ インターンシップを実施

本荘由利地区の7名の高校生を受け入れ、林業機械の操縦、チェーンソー等の操作、測量などを体験。



10月

### ■ 高性能林業機械を導入

森林整備加速化・林業再生基金事業を活用して高性能林業機械導入。

・グラップル付きバックホー 1台



平成23年 3月

### ■ 役員選挙を実施

役員選挙実施。新たに役員23名が選出される。小松組合長3期目へ。



## 平成23年度

平成23年 4月

### ■ 森林環境保全直接支援事業がスタート

集約化を進め、自然の地形を活かした路網整備と搬出間伐の促進がねらい。集約化団地形成と林内路網の整備、機械化の促進やオペレーターの技能向上を目指す。

10月 ■ 秋田県重点分野プロジェクト事業へ参画(木質バイオマス事業)

秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、秋田県産業技術センター、秋田県畜産試験場、市内機械メーカーとの共同研究で、木材を微粉碎して原料とする木質飼料ペレットを製造し、牛の代替飼料の可否を研究、事業化を目指す。森林組合では、木質飼料ペレット製造を担当する。



12月 ■ 木材乾燥貯蔵施設を設置

由利本荘市の単独補助事業により西目製材所に、木材乾燥貯蔵施設を建設する。「施設内でゆっくり時間をかけて自然乾燥した木材を使用した暖かな家づくり」がコンセプト。



平成24年 2月

■ ホームページをリニューアルする



平成24年度

平成24年 4月

■ 森林経営計画制度がスタート

森林施業計画に代わって、森林経営計画制度がスタートした。1団地5ha以上の施業実施面積確保と団地内で1ha当り10m<sup>3</sup>以上の間伐材の搬出が必須条件となる。

9月

■ 当組合チームが全国市町村交流レガッタ大会で優勝

9月29日、兵庫県豊岡市で開催された全国市町村交流レガッタ大会で成年男子の部で優勝。由利本荘市議会チームとダブル優勝。



11月

■ 鳥海支所移転

鳥海総合支所庁舎内へ。

12月

■ 仁賀保支所移転

金浦（旧ガス事務所）へ。

12月

■ 木材乾燥施設等を導入

森林整備加速化・林業再生基金事業を活用して高性能林業機械、木材乾燥機他導入。

【林産販売部門】

- ・ハーベスタ 1台
- ・プロセッサ 1台



- ・フォワーダ 1台
- ・グラップル付きバックホー 2台
- ・グラップル付きトラック 1台

【加工部門】

- ・木材乾燥機 2基
- ・グレーティングマシーン 1台
- ・モルダー 1台



## 平成25年度

平成25年10月

### ■ 秋田県知事表彰を受賞

当組合は、インターンシップの実施や若者の雇用を促進した取組みが認められ、「脱少子化ウェーブを巻き起こす行動県民会議」主催の会長（佐竹秋田県知事）表彰の栄に浴した。

平成26年 3月

### ■ 事業総収益過去最高を記録

円安基調に伴う国産材へのシフトや、消費税増税前の特需などにより木材価格が高騰したことなどから、木材取引量、事業総収益がともに過去最高を記録した。

3月

### ■ 役員選挙を実施

役員選挙実施。新たに役員23名が選出される。小松組合長4期目へ。



## 平成26年度(計画)

平成26年

### ■ 加工施設の製材ライン等を更新・新設

需要者の多様なニーズと付加価値の高い製品を効率的に生産するため、森林整備加速化・林業再生基金事業を活用して施設を整備予定。

- ・製材機械 ノーマンツインバンドソー他
- ・高性能林業機械 フォワーダ 2台

# 森林組合だより100号までのあゆみ

合併後間もない平成7年4月12日付け第1号森林組合だよりから、20周年を迎える今年、通算100号の発行となる。（9月発行予定）

現在のようなメディア機器も少ない時代から森林組合の情報源として年5回を目標に発行。第1号から100号直前までの区切りの表紙を掲載。

<p>第1号</p>	<p>第10号</p>	<p>第20号</p>	<p>第30号</p>
<p>H7.4.12</p>	<p>H9.1.1</p>	<p>H10.10.20</p>	<p>H12.8.29</p>
<p>第40号</p>	<p>第50号</p>	<p>第60号</p>	<p>第70号</p>
<p>H14.9.10</p>	<p>H16.8.31</p>	<p>H18.8.31</p>	<p>H20.9.10</p>
<p>第80号</p>	<p>第90号</p>	<p>第99号</p>	<p>第100号</p>
<p>H22.9.1</p>	<p>H24.9.6</p>	<p>H26.6.30</p>	<p>H26.9.1(予定)</p>

## 歴代の役職名簿

### 第1期 H7.3.31～ H8.3.30

- 代表理事組合長 田 口 莊一郎
- 副組合長理事 佐々木 善 宗・佐 藤 久 弥
- 常 任 理 事 吉 尾 満・小 松 文 一・赤 石 與之助  
堀 川 悌 二・佐 藤 恵
- 代 表 監 事 保 科 正一郎

### 第2期 H8.3.31～ H11.3.30

- 代表理事組合長 田 口 莊一郎
- 副組合長理事 佐 藤 久 弥・佐 藤 恵  
※総務委員、事業委員、林構専門委員を選出  
各委員長は、組合長が兼務
- 代 表 監 事 藤 原 軍 爾・三 浦 藤一郎 (H8.9.25～)

### 第3期 H11.3.31～ H14.3.30

- 代表理事組合長 佐 藤 恵
- 副組合長理事 佐 藤 久 弥・吉 尾 満
- 総務委員長 藤 原 軍 爾 ●総務副委員長 工 藤 喜 作
- 事業委員長 阿 部 一 雄 ●事業副委員長 木 村 久 行
- 代 表 監 事 三 浦 藤一郎

### 第4期 H14.3.31～ H17.3.30

- 代表理事組合長 佐 藤 健 一
- 副組合長理事 吉 尾 満・堀 川 悌 二
- 総務委員長 菊 地 鏡 治 ●総務副委員長 土 田 太一郎
- 事業委員長 阿 部 一 雄 ●事業副委員長 木 村 久 行
- 代 表 監 事 三 浦 藤一郎

### 第5期 H17.3.31～ H20.3.30

- 代表理事組合長 小 松 佳 和
- 副組合長理事 鈴 木 充・齋 藤 惣一郎
- 総務委員長 堀 川 悌 二 ●総務副委員長 熊 谷 典 夫
- 事業委員長 小 番 勲 ●事業副委員長 佐々木 庄 市
- 代 表 監 事 三 浦 藤一郎

### 第6期 H20.3.31～ H23.3.30

- 代表理事組合長 小 松 佳 和
- 副組合長理事 鈴 木 充・齋 藤 惣一郎
- 総務委員長 熊 谷 典 夫 ●総務副委員長 畑 山 作 喜
- 事業委員長 小 番 勲 ●事業副委員長 小 松 貢
- 代 表 監 事 三 浦 藤一郎・村 上 佐左衛門 (H21.7.1～)

### 第7期 H23.3.31～ H26.3.30

- 代表理事組合長 小 松 佳 和
- 副組合長理事 鈴 木 充・小 番 勲
- 総務委員長 熊 谷 典 夫 ●総務副委員長 猪 股 長 一
- 事業委員長 齋 藤 惣一郎 ●事業副委員長 小 松 貢
- 代 表 監 事 村 上 佐左衛門

### 第8期 H26.3.31～ H29.3.30

- 代表理事組合長 小 松 佳 和
- 副組合長理事 鈴 木 充・小 番 勲
- 総務委員長 熊 谷 典 夫 ●総務副委員長 伊 藤 修 二
- 事業委員長 齋 藤 惣一郎 ●事業副委員長 三 浦 功
- 代 表 監 事 村 上 佐左衛門



本荘由利森林組合 本所事務所



現在の職員





## 本荘由利森林組合 合併20周年記念誌

編集・発行／本荘由利森林組合  
〒015-0885 秋田県由利本荘市水林381番地  
TEL.0184-24-4141 FAX.0184-24-4143  
<http://www.honmori.com/>

**平成26年7月発行**